



篠崎 圭一  
(自民党)

**心の強さと優しさを育むための教育を**

**問** 予算編成の基本方針から、市の子育て・教育に対する意気込みを感じた。福祉、まちづくり、環境、子育てなどの取り組みにおいても優しい心が鍵であり、道徳教育の重要性は高まっているが、家庭や地域の教育力が低下しており、国や市、学校という場で取り組む必要がある。

直前に迫った道徳の教科化に向けた準備の状況と、今後、道徳教育でどのような子どもを育み、未来の宇都宮にとってどのような効果があるのか聞く。

**答** 変化の激しい社会を生き抜くには困難に立ち向かう心の強さや互いの

価値観を尊重しながら協働していく態度などが重要であり、特に今後は心の優しさが不可欠である。道徳の教科化に向け、

市では28年度から教員研修の実施や研究学校を指定した研究に取り組み、29年度には年間指導計画を作成するなど、教員が自信を持って授業が行えるよう準備を進めてきた。

道徳教育を通して、いたわりや思いやりの心、さらには、たくましい心を持つ子どもを育むことは、市の持続的な発展に大きく寄与する人材の育成につながるものと考えている。

**その他の質問項目**



- ①市長の政治姿勢(新年度と未来の税収確保など)②ブランド戦略(ブランド力向上のための集える案内所など)③宇都宮駅東口地区整備事業の事業者選定④環境行政(緑地保全など)⑤利便性の高い公共交通⑥宮原運動公園東側道路の整備



郷間 康久  
(市民連合)

**LRT車両基地周辺の土地利用検討調査の内容は**

**問** 平石地区に整備が予定されている車両基地周辺の土地利用検討調査が、30年度予算に計上されているが、地区の地域振興策も含め、どのような調査をするのか。また、車両基地付近の平石地区地域拠点との関係性をどのように位置づけて検討するのか。

**答** LRTの車両基地周辺は、LRT沿線の中でもトランジットセンターの整備を計画するなど、新たな拠点形成が期待できることから、交通結節拠点として拠点化の促進に向けた土地利用を検討するため、調査費を計上した。この調査では、トラン

ジットセンターを中心とする多くの人が行き交う立地特性を活かした交流促進や、平石地区など周辺地域の振興にもつながる導入機能や施設、規模などを検討する。

平石地区地域拠点は、日常生活に必要な店舗の誘導など、メリハリある都市計画制度の運用等により拠点形成に取り組む。調査では、交通結節拠点に隣接する特性を踏まえた機能誘導など役割分担を考慮し、地域の意見も聞きながら、土地利用を検討していく。



▲平石地区市民センター周辺の様子

**その他の質問項目**

- ①市長の政治姿勢(女性の活躍推進策など)②保育サービス(保育士の確保など)③行政情報メール配信サービス④市民まちづくり政策(まちづくり活動応援事業など)⑤消防団活動(団員確保など)⑥道路行政⑦中世日光山最後の権別当「座禪院昌尊」の文化資源化



黒子 英明  
(自民党)

**出会いだけではなく結婚支援を**

**問** 生涯未婚率が男性約25%、女性約15%に達している。女性は出産によるキャリアの中断や退職を考え、結婚・出産に踏み切れない場合もある。男性は、経済的不安を理由に結婚しない人が多く、特に非正規社員の若年層では、自分の生活の維持だけで精一杯と考える人が増えている。

結婚を支援していくうえで、子育て世帯でも働きやすい環境づくりや、経済的な不安を払拭できるような支援が必要ではないか。

**答** 若い世代が希望に沿って結婚・出産できるよう、ワークライフバランスの推進や、教育・保育

施設などの供給体制の確保などに取り組んでいる。女性が子育てしながらキャリアを中断せず働き続けるためには、男性の家庭参画とそれを可能とする職場環境づくりがこれまで以上に求められるため、柔軟な働き方の先進事例を企業に紹介するなど、企業による働きやすい職場環境づくりを支援していく。

また、若年夫婦・子育て世帯対象の家賃補助制度を市内企業の新卒採用者や市で結婚を希望する女性まで拡大し、結婚から出産・子育てまでの切れ目のない各種施策を総合的に推進し、結婚の支援に努めていく。

**その他の質問項目**



- ①市長の政治姿勢(30年度予算編成、市農産物の販売戦略、競輪事業)②公共施設の管理③多世帯家族同居の支援④耕作放棄地の活用⑤国の米政策見直しによる市の取り組み⑥公共下水道の雨水幹線の整備⑦不登校対策